



2012

国立国会図書館関西館
開館10周年記念展示会

2002

関西の図書館 100年、 関西館の 10年

 国立国会図書館

関西館開館10周年記念展示会によせて(国立国会図書館長 大滝則忠)	3
第Ⅰ部 関西の図書館100年	4
第1章 100年前の図書館	4
第2章 大正・昭和前期の図書館	6
第3章 戦後図書館運動の起こり	8
第4章 地域・生活のなかの図書館	9
第5章 21世紀の図書館へ	12
関西館の図書館用品あれこれ	14
第Ⅱ部 関西館の10年	15
第1章 国立国会図書館について	15
第2章 関西館構想と建築	16
第3章 関西館の事業	19
第4章 関西館所蔵のコレクション	23
第5章 これからの10年(近年の取り組みから)	24
国立国会図書館「私たちの使命・目標2012-2016」	26
主要参考文献一覧	28
協力機関・協力者名一覧	31

- * 本パンフレットは、国立国会図書館関西館開館10周年記念展示会「関西の図書館100年、関西館の10年」(平成24年10月1日～31日)の解説パンフレットです。
- * 展示資料の欄には、タイトル、著者、出版者、刊行年、請求記号を記載しました。書誌事項については適宜〔〕内に推定される項目を補い、当館請求記号は<>内に記載しました。他機関所蔵資料は<>内に提供元を示しています。
- * ご利用はデジタル画像の閲覧になる場合があります。
- * 本文中の敬称は省略しました。

(表紙画像) 国立国会図書館関西館利用者エントランス(北口)

関西館開館10周年記念展示会によせて

国立国会図書館関西館は、このたび、開館10周年を迎えました。

国立国会図書館は、国民共有の情報資源である図書館資料を永く保存して提供する使命を有しています。関西館は、21世紀における国立国会図書館が、資料収蔵スペースを長期的に確保するとともに、高度情報通信社会に対応する機能を飛躍的に強化充実することを目的として、同時に、関西文化学術研究都市における大型情報提供施設としての機能を担って、開館いたしました。



この展示会は、関西館10年の歩みを振り返るとともに、伝統豊かな関西の図書館100年の歴史を語る資料で構成しています。みなさまにご高覧いただき、歴史に学ぶことを通じ、これからの図書館が果たすべき役割についてお考えいただく機会になれば幸いです。

結びに、けいはんな学研都市に根ざしつつ、国の内外に広く情報発信する関西館がますます発展できるように、引き続きのご支援を心からお願い申し上げます。

平成24年10月1日

国立国会図書館長

おおたき のりただ
大滝 則忠

第 I 部 関西の図書館100年

第 1 章 100年前の図書館

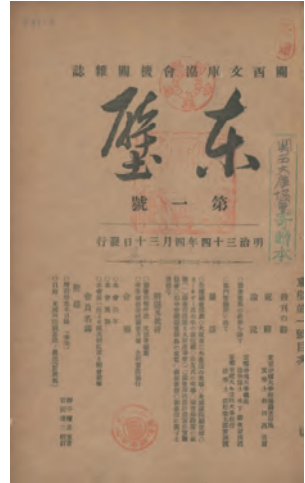
関西には、我が国の図書館の歴史上、全国的にも先進的で顕著な活動をした図書館が多数存在した。明治初期に京都に設置された集書院（資料1）は、日本の近代公共図書館の最初期の事例の一つとされている。しかし、図書館の普及は進まず、明治30（1897）年時点での全国の図書館数は、公私立合わせて31館にとどまっていた。

この年設置された京都帝国大学では、初代総長である木下広次^{きのしたひろじ}が、京都帝国大学附属図書館を拡張して西日本の代表的な図書館にする構想を示していた（資料4）。東京への集中を避け、関西にも図書館を設置しようという希望は、すでにこの頃から存在していたのである。また、京都帝国大学附属図書館長だった島文次郎^{しまぶんじろう}は、関西文庫協会を組織して図書館関係者の結束を図り、我が国初の図書館専門雑誌『東壁』（資料5）を刊行して、図書館事業の宣伝に努めた。

今からおよそ100年前の明治末期・大正初期にかけて、内務省・文部省が社会教育上の観点から、地域の図書館設置を奨励していくようになった。日露戦争が始まった年である明治37（1904）年には大阪で、また、日露戦後の明治42（1909）年には、京都、奈良で、それぞれ現在の府県立図書館につながる図書館が設立されている。図書館の設置数は、この時期を起点に大幅に増加していくことになった。



集書院写真（京都府立総合資料館提供）



『東壁』第1号

第I部第1章 展示資料

1. 集書院写真 撮影年不明 <京都府立総合資料館提供>
2. 『風俗画報』第218号 明治33（1900）年 <雑23-8>
3. 『図書館管理法』文部省編 金港堂書籍 明治33（1900）年
<特273-937>
4. 『大阪毎日新聞』明治30（1897）年8月29日 6面 <YB-7>
5. 『東壁』第1号 明治34（1901）年4月 <雑59-37>
6. 全国図書館大会絵葉書 明治42（1909）年5月頃か？ <個人蔵>
7. 大阪図書館開館当時の写真 明治37（1904）年 <大阪府立中之島図書館提供>
8. 『京都府立京都図書館一覧』京都府立京都図書館編・刊 明治43（1910）年
<016.2-KY6ウ>
9. 『官報』第8001号 明治43（1910）年2月26日 <CZ-2-2>

10. 『地方経営小鑑』 内務省地方局編纂 内務省発行 明治43 (1910) 年
<335-126>
11. 『京都叢書』 京都叢書刊行会編・刊 大正3 (1914) 年
<291.62-Ky9958-K >

第2章 大正・昭和前期の図書館

大正時代に入ると、図書館の数は大幅に増加し、それにともなって、図書館を利用する人の数も増加した。新たに図書館を利用する人々に向けて、図書館の側も様々なサービスを模索するようになっていく。

大阪で図書館用品の販売会社を営んでいた間宮不二雄^{まみやふじお}は、昭和2 (1927) 年、近隣の図書館員を集めて青年図書館員聯盟(以下「青聯」という。)を結成した。間宮たち青聯は、図書館用語や用品の規格統一、目録規則、図書館管理法について研究活動を続け、全国の図書館の中でも独自の存在感を持ち続けた。

また、昭和に入ると、不安定な世相の中で、図書館は次第に「国民思想善導」のための機関としての活用法が検討されていくようになった。出版物に対する検閲強化が図られたのもこの時期だった。やがて、日本が戦争に突入していく中で、図書館では、資料提供に対して規制が加えられたり(資料19)、発行している図書館報で「時局」に対する覚悟が説かれたり(資料20)、町会(町内会)での文庫活用が模索されるようになった(資料21)。



『図書館研究』第1巻



『図書館研究』第1号

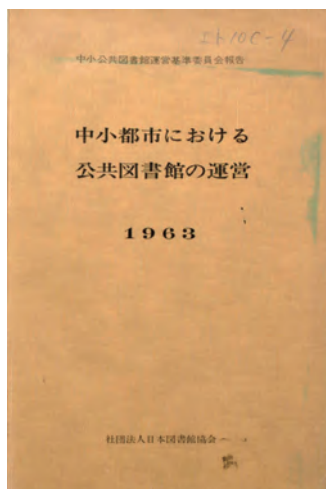
第I部第2章 展示資料

12. 『奈良県立奈良図書館月報』 1巻2号 大正12 (1923) 年2月
<雑14-67>
13. 大阪図書館協会絵葉書 大正14 (1925) 年頃? <個人蔵>
14. 『図書館研究』 第4巻 書架ノ話追加 大正14 (1925) 年12月
<278-107>
15. 『^{としょかん}図書館研究』 第1巻第1号 昭和3 (1928) 年1月 <Z21-129>
16. 『宝塚文芸図書館月報』 創刊号 昭和11 (1936) 年7月 <雑14-69>
17. 石上宅嗣卿顕彰記念絵葉書 大正9 (1920) 年 <個人蔵>
18. 『石上宅嗣卿』 石上宅嗣卿顕彰会編・刊行 昭和5 (1930) 年
<610-38>
19. 『回想のなかの図書館』 田島清著 広文堂 昭和50 (1975) 年
<UL9-5>
20. 『京都府中央図書館報』 第30号 昭和12 (1937) 年10月 <雑14-66>
21. 『町会文庫』 大阪市発行 昭和17 (1942) 年 <016.2-O731-3ウ>

第3章 戦後図書館運動の起こり

戦後の我が国では、占領軍の総司令部・連合国軍最高司令官（GHQ/SCAP）の下で、様々な改革が実施されていった。民間情報教育局（CIE）が主要都市に設置したCIE図書館では、日本ではほとんど取り入れられていなかった先進的なサービスが導入され、その後の図書館のあり方にも影響を与えた。また、昭和25（1950）年には、「図書館奉仕」の理念を定めた図書館法が公布された。同法では、利用料無料の原則が定められたほか、公共図書館に設置される司書職が規定され、大学に司書課程が設置される契機となっていった。

また、昭和38（1963）年には、戦後の図書館改革を受けて『中小都市における公共図書館の運営』が刊行され、高度成長期の中で、貸出を中心とした公共図書館のあり方が普及していくことになった。



『中小都市における公共図書館の運営』

第I部第3章 展示資料

22. 『あるライブラリアンの記録・補遺』 豊後レイコ著 田口瑛子、深井耀子
企画・編集 女性図書館職研究会・日図研図書館職の記録研究グループ
平成22（2010）年 <UL55-J6>
23. 『図書館と私たち』 兵庫県図書館協会編 文教書院 昭和26（1951）年
<010-H998t-(2)>
24. 『都市図書館に於ける分館論』 西村精一著 京都府立図書館 昭和29
（1954）年 <011.3-N797t>

25. 『りべる—黎明期の参考事務』 志智嘉九郎編・刊 昭和61（1986）年
＜UL731-34＞
26. 同志社大学図書館学講習所第一回卒業写真 昭和22（1947）年3月26日
＜同志社大学図書館提供＞
27. 『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』 桃山学院大学エクステンション・センター編・刊 平成23（2011）年 ＜UL543-J1＞
28. 『豊中市立図書館動く図書館60年のあゆみ』 豊中市教育委員会、豊中市立岡町図書館館外サービス係編 豊中・箕面地域情報アーカイブ化事業実行委員会 平成22（2010）年 ＜UL727-J1＞
29. 『中小都市における公共図書館の運営』 日本図書館協会編・刊 昭和38（1963）年 ＜016.2-N689t＞

第4章 地域・生活のなかの図書館

昭和45（1970）年に刊行された『市民の図書館』（資料30）は、個人貸出、児童サービス、移動図書館も活用した全域サービス等々、公共図書館運営の新たなモデルを提起した。

また、昭和54（1979）年には、「図書館の自由に関する宣言」が改訂される等、戦後の図書館運動を踏まえて、1970年代を通じて図書館の理論的な基礎が固められていった。

他方、石油危機に象徴される経済不況は、図書館新設の動きにも影を落としていく。1990年代になると、地方分権の推進とともに、図書館法の見直しも進められた。また、生涯学習施設として新たに図書館を捉えなおす動きも生まれしてきた。

平成7（1995）年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災では、関西にある図書館が大きな被害を受けた。震災の教訓を将来の世代に伝えるための取り組みが進められている。



『市民の図書館』



大阪府立中之島図書館の被災状況（大阪府立中之島図書館提供）

第 I 部第 4 章 展示資料

30. 『市民の図書館』 日本図書館協会編・刊 昭和45（1970）年
＜UL244-8＞
31. 『図書館の自由に関する宣言 1979年改訂』 日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会編 日本図書館協会 昭和54（1979）年
＜UL11-32＞
32. 『現代の図書館』 17巻2号（文庫＜特集＞） 昭和54（1979）年6月
＜Z21-8＞
33. 『本と遊びとなかまたち：京都の子ども文庫』 京都家庭文庫地域文庫連絡会十周年記念事業実行委員会編 京都家庭文庫地域文庫連絡会 昭和58（1983）年 ＜UL414-16＞
34. 『大阪府立図書館参考事務必携』 大阪府立図書館編・刊 昭和46（1971）年 ＜UL731-6＞
35. 『市町村立図書館の建設に向けて』 滋賀県教育委員会編・刊 [昭和63（1988）年] ＜UL244-E26＞
36. 大阪府立図書館の被災状況 平成7（1995）年 ＜大阪府立中之島図書館提供＞
37. 『阪神・淡路大震災と図書館活動：神戸大学「震災文庫」の挑戦』 稲葉洋子著 人と情報を結ぶ WE プロデュース 平成17（2005）年
＜UL274-H29＞
38. 『図書館が危ない！地震災害編』 神谷優著、西川馨監修 エルアイユー 平成17（2005）年 ＜UL11-H34＞

第5章 21世紀の図書館へ

1990年代以降、図書館における業務の機械化が急速に進められた。電子図書館についての議論が深められていくのも、この時期である。21世紀に入ってから、図書館の所蔵資料そのもののデジタル化についても、議論と実践が重ねられてきた。情報環境の変化は、大学図書館を中心に、業務・サービスの在り方を転換する契機となった。平成12（2000）年11月、京都大学で開かれた京都電子図書館国際会議では、電子図書館の発展を目指すコミュニケーションが採択されている。

近年では、ネットワーク化の進展によって、図書館相互の連携が深められていくとともに、関西の様々な図書館で、ビジネス支援やファッションショーなど、従来の枠組みにとらわれない様々なサービスやイベントが企画されている。関西に図書館が本格的に設置されはじめてから100年を経た今、新しい時代に対応していく図書館の姿が求められる。



奈良県立図書館情報館におけるビブリオバトル
(奈良県立図書館情報館提供)

第I部第5章 展示資料

39. 『電子図書館』 長尾真著 岩波書店 平成6（1994）年 <UL11-E52>
40. 『概念検索機能を持った電子図書館の構築』 今井正和、奈良先端科学技術大学院大学編 [今井正和発行] 平成12（2000）年
<Y151-H10558055>

41. 『2000年京都電子図書館国際会議：研究と実際』 京都大学電子図書館国際会議編集委員会編 日本図書館協会 平成13（2001）年
< UL11-G80 >
42. 『図書館界』 第63巻第2号 平成23（2011）年7月 < Z21-131 >
43. 奈良県立図書情報館のビブリオバトル写真 平成23（2011）年 <奈良県立図書情報館提供>
44. 『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』 『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』 編集委員会編 大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会 平成16（2004）年 < UL244-H43 >
45. 『京都府立図書館「岡崎」100周年記念』 京都府立図書館編・刊 平成21（2009）年 < Y121-J7604 >
46. 『「奈良県立図書館」100年の歩み：県立図書館から県立図書情報館へ：開館100周年記念』 奈良県立図書情報館編・刊 平成22（2010）年
< Y121-J4002 >
47. 『関西図書館あんない：book map』 創元社編集部編 創元社 平成19（2007）年 < Y77-J332 >



関西館の図書館用品あれこれ



タイトル、著者名などが手書きで記されたカード目録。現在は大部分の資料が国立国会図書館蔵書検索システム（NDL-OPAC）で検索できるようになり、カード目録使用の機会も減りつつある。

目録のカードの上部に半円型の切り込みを入れる道具。カードによって違う位置に切り込みを入れ、インデックスとして使った。



アラビア文字を入力するタイプライター。キリル文字のものもある。キーボードは下のようになっている。



簡易な資料補修に使う道具。のり、刷毛、ヘラ、破れを修復する和紙など。ひどい破損の場合は専門の修復業者に依頼する。

第Ⅱ部 関西館の10年

第1章 国立国会図書館について

国立国会図書館は、戦前の帝国議会に置かれた貴族院・衆議院のそれぞれの図書館、及び上野の帝国図書館という二つの源流をもち、昭和23（1948）年2月の国立国会図書館法の制定によって設置された、我が国唯一の国立図書館である。国立国会図書館法は、第一条で「図書及びその他の図書館資料を蒐集し、国会議員の職務の遂行に資するとともに、行政及び司法の各部門に対し、更に日本国民に対し、この法律に規定する図書館奉仕を提供する」という目的を述べ、納本制度によって日本国内で刊行される出版物を網羅的に集め、これらの資料にもとづいて、国会、行政及び司法の各部門、国民に対するサービスを提供することを定めている。

現在の国立国会図書館は、中央の図書館（東京都千代田区永田町の東京本館及び京都府相楽郡精華町の関西館）と、東京都台東区上野公園の国際子ども図書館及び行政・司法各部門の支部図書館とで構成されている。

第Ⅱ部第1章 展示資料

48. 『国立国会図書館三十年史 資料編』国立国会図書館 編・刊 昭和55（1980）年 <UL214-7>



『国立国会図書館五十年史』

49. 『国立国会図書館五十年史 本編』 国立国会図書館五十年史編纂委員会編
国立国会図書館 平成11（1999）年 < UL214-G10 >
50. 『国立国会図書館百科』 国立国会図書館百科編集委員会編 出版ニュース
社 昭和63（1988）年 < UL214-E4 >
51. 『国立国会図書館入門』 国立国会図書館監修、NDL 入門編集委員会編
三一書房 平成10（1998）年 < UL214-G6 >
52. 納本制度60周年ポスター 平成20（2008）年 < 関西館総務課所蔵 >
53. 『よくわかる納本制度：国立国会図書館は納本をお待ちしています』 国
立国会図書館編・刊 平成20（2008）年 < Y111-J361 >

第2章 関西館構想と建築

国立国会図書館関西館は、図書館資料の収蔵スペースを長期的に確保し、21世紀の高度情報化社会における需要に対応するとともに、関西の大型情報提供施設としての機能を果たすことを目的に、平成14（2002）年4月に設置された。

関西館設立の構想の発端は、今から30年前の昭和57（1982）年6月12日に設置された国立国会図書館関西プロジェクト調査会の審議まで遡ることができる。以後数度にわたる検討や基本構想の策定を受け、平成6（1994）年5月に基本計画の原案が作成された。

関西館のデザインは、建設省主催で平成7（1995）年度から8年度にかけて行われた関西館建築設計競技により、最優秀作品に選ばれた陶器二三雄（株式会社陶器二三雄建築研究所、協同設計者3名）のデザインに決定した。



関西館設立に関する会議録・報告書類

第Ⅱ部第2章 展示資料

54. 『国立国会図書館関西プロジェクト調査会会議：会議録 第1回』 国立国会図書館関西プロジェクト調査会編・刊 [昭和58（1983）年]
 < UL214-G14 >
55. 関西プロジェクト調査会答申 写 [昭和62（1987）年]
 < 関西館総務課所蔵 >
56. 『国立国会図書館関西館（仮称）設立に関する第一次基本構想』 国立国会図書館編・刊 昭和63（1988）年 < UL214-E2 >
57. 『国立国会図書館関西館（仮称）設立に関する第二次基本構想：情報資源の共有をめざして』 国立国会図書館編・刊 平成3（1991）年
 < UL214-E12 >
58. 『図書館研究シリーズ』第30号（<特集>関西館構想：調査報告書集成）平成5（1993）年 < Z21-127 >
59. 『図書館研究シリーズ』第36号（<特集>国立国会図書館における研究・研修機能の充実に向けて）平成12（2000）年 < Z21-127 >
60. 『国立国会図書館関西館「仮称」建築設計競技応募作品集』 建設大臣官房官庁営繕部監修 公共建築協会 平成9（1997）年 < UL521-G5 >

61. 『国立国会図書館関西館の建築』 陶器二三雄著 丸善出版事業部 平成
15 (2003) 年 < UL521-H3 >

関西館開館までの経緯

昭和57 (1982) 年	6月	国立国会図書館関西プロジェクト調査会を設置
昭和62 (1987) 年	4月	関西プロジェクト調査会、新施設を関西文 化学術研究都市に設置することを答申
昭和63 (1988) 年	8月	「国立国会図書館関西館 (仮称) 設立に関 する第一次基本構想」策定
平成3 (1991) 年	8月	「国立国会図書館関西館 (仮称) 設立に関 する第二次基本構想」策定
平成6 (1994) 年	5月	関西館準備室設置
平成6 (1994) 年	12月	国立国会図書館建築委員会が国会に対し関 西館の建設を勧告 平成7年度予算に関係経費を計上し、関西 館建設計画の事業化開始
平成8 (1996) 年	8月	関西館建築設計競技が行われ、陶器二三雄 の作品が最優秀作品に決定
平成10 (1998) 年	10月	建設工事着工
平成14 (2002) 年	3月	概成、引渡式挙行
平成14 (2002) 年	4月	関西館設置
平成14 (2002) 年	9月	資料移転終了
平成14 (2002) 年	10月	関西館開館

第3章 関西館の事業

関西館では、①来館利用だけでなく、郵送による複写物の提供や図書館間貸出など遠隔利用を含めた資料提供、②図書館協力事業、③電子図書館事業の3つの基本機能を軸にサービスを展開している。

関西館が行う図書館協力は、国立国会図書館の重要な任務の一つであり、事業として、研修交流、図書館情報学に関する調査研究、総合目録ネットワーク事業、レファレンス協同データベース事業の推進、図書館における障害者サービスへの支援を通じた各種図書館・図書館関係団体との連携・協力を行っている。



『カレントアウェアネス』



『図書館協力ハンドブック』



『レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン』

電子図書館事業では、国立国会図書館所蔵資料のデジタル化を行っている。「国立国会図書館デジタル化資料」として提供している資料は、古典籍、和図書、和雑誌、官報、博士論文を合わせると、216.5万点にのぼり、うち41万点をインターネット公開している（平成24（2012）年8月現在）。平成23（2011）年5月からは、歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）が1900

年初頭から1950年頃に国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等の音源をデジタル化した「歴史的音源」の公開を開始した。また、平成14（2002）年4月からは、公的機関が発信するインターネット資料の収集保存を開始したほか、インターネット上で提供されるデータベースのナビゲーションも行っている。



『国立国会図書館
資料デジタル化の手引』



『電子書籍の流通・利用・
保存に関する調査研究』

第Ⅱ部第3章 展示資料

62. 『国立国会図書館資料デジタル化の手引』 2011年版 平成23（2011）年
＜UL755-J20＞
63. 『電子書籍の流通・利用・保存に関する調査研究』 国立国会図書館関西館図書館協力課編・刊 平成21（2009）年 ＜UL587-J3＞
64. 近代デジタルライブラリー（ポスター） 平成24（2012）年 ＜関西館電子図書館課所蔵＞

65. 『日本歴史』 第740号 平成22 (2010) 年 1月 < Z8-255 >
66. 『国立国会図書館月報』 第552号 平成19 (2007) 年 3月 < Z21-146 >
67. 『図書館協力ハンドブック. 2007』 国立国会図書館関西館事業部図書館協力課編・刊 平成19 (2007) 年 < UL214-H7 >
68. 『デジタル時代の情報リテラシー教育：日本研究に関わる学術図書館を中心として：平成16年度日本研究情報専門家研修ワークショップ記録』 国際文化会館図書室編 国際交流基金 平成18 (2006) 年 < UA21-H111 >
69. 『カレントアウェアネス』 1号 昭和54 (1979) 年 8月 < Z21-1007 >
70. カレントアウェアネス (ポスター) 平成23 (2011) 年 < 関西館図書館協力課所蔵 >
71. 『レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン』 国立国会図書館関西館事業部編・刊 平成18 (2006) 年 < UL731-H18 >
72. 『国立国会図書館総合目録ネットワーク』 国立国会図書館関西館図書館協力課協力ネットワーク係編・刊 平成19 (2007) 年 < Y111-J472 >
73. 『国立国会図書館の障害者図書館協力サービス』 国立国会図書館関西館図書館協力課障害者図書館協力係編・刊 [平成21(2009)年] < Y111-J870 >
74. 『図書館小識』 日本図書館協会編 国立国会図書館制作電子(デイジー)資料 平成22 (2010) 年 < YH141-H295 >
75. 『ドラえもんあそびがいっぱい!』 藤子・F・不二雄キャラクター原作 小学館 平成19 (2007) 年 < YT1-H800 >
76. 『中国国家图书馆馆史：1909-2009』 李致忠主编 國家圖書館出版社 2009年 < UL215-C8 >
77. 『국립중앙도서관 60년사 (国立中央図書館60年史)』 국립중앙도서관 [編] 국립중앙도서관 2006年 < UL215-K7 >
78. 『アジアへの知的探求と図書館サービスの新展開：シンポジウム記録集』

国立国会図書館関西館編 国立国会図書館 平成16 (2004) 年

< UL711-H10 >

79. 『アジア情報室通報』 1 巻 1 号 平成 15 (2003) 年 < Z71-J686 >



『アジア情報室通報』 第1号

国立国会図書館デジタル化資料

検索 館内限定公開資料を含める コレクション検索 テーマ検索 詳細条件で検索

国立国会図書館で収集・集積されているさまざまなデジタル化資料を検索・閲覧できるサービスです。

歴史的音源

歴史的音源とは、1900年初頭～1950年頃に国内で製造されたSP盤及び金厚厚盤等に収録された音楽・演説等約5万の音源を指します。平成21年度から歴史的音源アーカイブ推進協議会（HIRAC）では、歴史的音源のデジタル化を進めており、国立国会図書館では、当該資料を順次館内で提供するとともに、著作権・著作権隣接権保護期間を満了したものについてインターネットへ公開します。

音源には、落語、長唄、管弦楽、歌劇、清元、浪花節、歌謡曲、講演、ジャズ、など多様な内容が含まれます。

公立図書館への歴史的音源の配信提供に
関して



講演・憲政に於ける世論の勢力(一)
梶原 大隈 重信 閣下

大隈重信(1838-1922)は、新聞やレコードといったメディアを積極的に利用した政治家として知られている。このレコードは大正4(1915)年に発売されたレコードを、大隈重信が亡くなった大正11(1922)年に再発売したものだ。

1/5

JASRAC許諾番号J120318369号

詳細検索へ
歴史的音源のタイトル一覧へ
インターネット公開分のみの一覧へ

古典籍資料(貴重書等) 図書 雑誌 新聞 **歴史的音源** 官報 博士論文 インターネット資料

国立国会図書館デジタル化資料

第4章 関西館所蔵のコレクション

関西館では、主に以下の資料を所蔵している。

①国内の図書、雑誌の一部

※複数納本された場合の2部目を含む。雑誌は雑誌記事索引に採録されたタイトルが中心。

②洋雑誌

③アジア諸言語の図書、雑誌、新聞

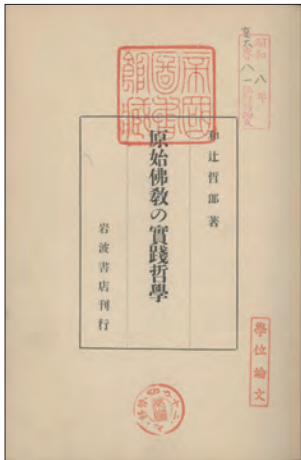
④科学技術関係資料

⑤文部科学省科学研究費補助金による研究成果報告書（科研費報告書）

⑥国内博士論文

①については、學術書を中心に図書約145万冊、和雑誌約5万8千タイトルを所蔵している。また、②については、国立国会図書館の所蔵のほとんど全てに当たる4万5千タイトルを関西館で所蔵している。

③～⑥は、関西館が所蔵する特徴的な資料群である。



『原始仏教の實踐哲學』



Yapon mohbiri 表紙

関西館では、これらのコレクションをもとに、インターネットを通じた複写などの遠隔利用サービス、図書館間貸出などに対応している。また、アジア地域に関するレファレンス・サービス、アジア情報に関する図書館員向け研修なども行っている。

第Ⅱ部第4章 展示資料

80. *Tuhfet ül-kibar fi esfar il-bihar* [1729年] < Y782-K30 >
81. *Yapon mohbiri* 1931年 < Z51-A481 >
82. 『新民主主義論』 毛沢東著 新华书店 1949年 < XP-A-84179 >
83. 『Korean animation collection 2007』 문화관광부編 문화관광부 2008年 < KD9-K8 >
84. 関西館書庫写真 < 関西館所蔵 >
85. 『原始仏教の実践哲学』 和辻哲郎著 京都帝国大学学位論文 昭和7(1932)年 < UT51-文12-7 >
86. *Miscellanea curiosa* 1670年 < Z78-A603 >
87. *Journal des scavans*. 1 1665年 < Z55-D572 >
88. 『宇宙探査機の低温動作型、推進・電力統合システムの試作研究』 川口淳一郎, 宇宙航空研究開発機構著 川口淳一郎発行 平成20(2008)年 < Y151-H15360455 >

第5章 これからの10年（近年の取り組みから）

近年の情報通信技術の急速な発達により、国立国会図書館に求められる役割も大きく変化している。「国立国会図書館デジタル化資料」では、平成21(2009)年度補正予算によって実施した大規模デジタル化の成果物を含め、216.5万点（うちインターネット公開しているのは41万点）の資料を提供し

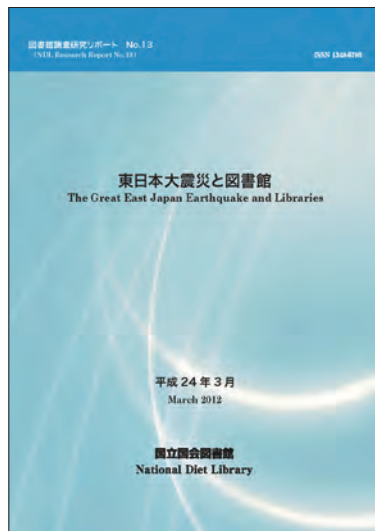
ている（平成24（2012）年8月現在）。平成22（2010）年からは国等のインターネット資料の収集を開始し、平成25（2013）年7月1日からは、民間出版者による無償のオンライン資料の収集も開始される予定である。

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災を受け、資料保存の重要性が見直されるとともに、東日本大震災アーカイブを構築し、記録を後世に残していく取り組みも始められている。関西館では、震災に関する電子情報の収集を進め、東日本大震災と図書館に関する調査報告書をまとめた。

これからの10年に向けて、関西館では、紙の本の保存だけでなく、新たに大量に生み出される多様な電子情報を収集・保存し、また効果的に提供するための仕組みの実現に向けて活動していく。

展示資料

89. 国民読書年ポスター 平成22(2010)
年 <関西館総務課所蔵>
90. 『国立国会図書館月報』第600号 平成23（2011）年3月 <Z21-146>
91. 『未来の図書館を作るとは』 長尾真著・発行 平成24（2012）年
<Y93-J4736>
92. 『東日本大震災と図書館』 国立国会図書館関西館図書館協力課編・刊 平成24（2012）年 <UL244-J96>
93. 『国立国会図書館月報』第614号 平成24（2012）年5月 <Z21-146>



『東日本大震災と図書館』

国立国会図書館「私たちの使命・目標2012-2016」

(平成24年7月27日 策定)

1. 私たちの使命

国立国会図書館は、出版物を中心に国内外の資料・情報を広く収集し、保存して、知識・文化の基盤となり、国会の活動を補佐するとともに、行政・司法及び国民に図書館サービスを提供することを通じ、国民の創造的な活動に貢献し、民主主義の発展に寄与します。

国立国会図書館は、その使命を果たすため、おおむね5年間、とりわけ次の目標の達成に向けて最大限の努力をします。

2. 目標

目標1：国会の活動の補佐

国政課題に関する信頼性の高い専門的調査・分析と迅速かつ的確な情報提供を一層強化して、国会の活動を十全に補佐します。

目標2：収集・保存

納本制度を一層充実させて、国内出版物の網羅的収集に努めるとともに、印刷出版物にとどまらず、電子的に流通する情報を含め、様々な資料・情報を文化的資産として収集し、保存します。

目標3：情報アクセス

国立国会図書館の収集資料を簡便に利用し、また必要な情報に迅速かつ的確にアクセスできるように、新しい情報環境に対応して、資料のデジタル化、探索手段の向上など、誰もが利用しやすい環境・手段を整備します。

目標4：協力・連携

国内外の関係機関と連携して、知識・文化の基盤を一層豊かにし、人々の役に立つものとします。

目標5：東日本大震災アーカイブ

未曾有の災害の記録・教訓を後世に確実に伝えるための東日本大震災アーカイブを構築します。

目標6：運営管理

透明性が高く効率的な運営管理を行い、高度なサービス提供を担うことができる人材を育成し、また必要な施設を整備します。

主要参考文献一覧

<第 I 部関係>

- 小野則秋『日本文庫史』教育図書,1942.
- 竹林熊彦『近世日本文庫史』大雅堂,1943.
- 竹林熊彦「関西文庫協会—その歴史的意義」京都図書館協会十周年記念論集
編集委員会編『図書館の学と歴史』京都図書館協会,1958,p.37-52.
- 小野則秋「同志社大学図書館発展史」『同志社大学図書館学会紀要』
(1),1958,pp.11-18.
- 京都大学附属図書館編『京都大学附属図書館六十年史』京都大学附属図書館,1961.
- 「間宮不二雄追悼特集」『図書館雑誌』65(2),1971.2,pp.14-25.
- 石井敦『日本近代公共図書館史の研究』日本図書館協会,1972.
- 石井敦編『図書館を育てた人々』日本図書館協会,1983.
- 永末十四雄『日本公共図書館の形成』日本図書館協会,1984.
- 日本図書館協会編『近代日本図書館のあゆみ・地方編』日本図書館協会,1992.
- 日本図書館協会編『近代日本図書館のあゆみ・本編』日本図書館協会,1993.
- 伊丹市立図書館編『震災の記録 平成7年』阪神地区公共図書館協議会,1996.
- オーラルヒストリー研究会編『「中小都市における公共図書館の運営」の成立とその時代』日本図書館協会,1998.
- 多田建次『京都集書院』玉川大学出版部,1998.
- 東條文規『図書館の近代』ポット出版,1999.
- 回顧録編集委員会編『CIE 図書館を回顧して』回顧録編集委員会,2003.
- 『中之島百年—大阪府立図書館のあゆみ』編集委員会編『中之島百年』大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会,2004.
- 小川徹・奥泉和久・小黒浩司『公共図書館サービス・運動の歴史・1』日本図

- 書館協会,2006.
- 小川徹・奥泉和久・小黒浩司『公共図書館サービス・運動の歴史・2』日本図書館協会,2006.
- 岩猿敏生『日本図書館史概説』日外アソシエーツ,2007.
- 日本図書館文化史研究会編『図書館人物伝』日外アソシエーツ,2007.
- 廣庭基介「京大図書館の開設」丸山宏・伊從勉・高木博志編『みやこの近代』思文閣出版,2008.
- 奥泉和久編著『近代日本公共図書館年表』日本図書館協会,2009.
- 『京都府立図書館「岡崎」100周年記念』京都府立図書館,2009.
- 『「奈良県立図書館」100年の歩み』奈良県立図書館情報館,2010.
- 山梨あや『近代日本における読書と社会教育』法政大学出版局,2011.
- 根本彰『理想の図書館とは何か』ミネルヴァ書房,2011.

<第Ⅱ部関係>

- 国立国会図書館編『国立国会図書館三十年史』国立国会図書館,1979.
- 国立国会図書館『国立国会図書館関西館(仮称)設立に関する第一次基本構想』国立国会図書館,1988.
- 国立国会図書館『国立国会図書館関西館(仮称)設立に関する第二次基本構想』国立国会図書館,1991.
- 「<特集>関西館構想—調査報告書集成」『図書館研究シリーズ』(30),1993.
p.1-540.
- 国立国会図書館五十年史編纂委員会編『国立国会図書館五十年史』国立国会図書館,1999.
- 国立国会図書館関西館編『図書館新世紀：国立国会図書館関西館開館記念シンポジウム記録集』国立国会図書館,2003.

関西館開館までの経緯. 国立国会図書館ホームページ.

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/about/history.html>

関西館関係文献リスト. 国立国会図書館ホームページ.

http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/about/history_book.html

関西館の建設目的・基本機能. 国立国会図書館ホームページ.

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/about/functions.html>



協力機関・協力者名一覧

この展示会の開催にあたり、各方面から寄せられたご協力に対して、厚く感謝申し上げます。

大阪府立中央図書館

大阪府立中之島図書館

関西文化学術研究都市推進機構

京都大学附属図書館

京都府立総合資料館

京都府立図書館

精華町立図書館

同志社大学図書館

奈良県立図書情報館

日本図書館協会

宇治郷毅

田村俊作

春山明哲

(機関名／個人名五十音順、敬称略)

関西の図書館100年、関西館の10年

平成24年10月1日発行

編集・発行 国立国会図書館関西館

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

0774-98-1200 (自動音声案内)

<http://www.ndl.go.jp/>



(紙にリサイクル可能)